

医師国家試験に特徴的な表現の分析

—動詞を中心に—

Analysis of Characteristic Expressions in the National Examination for Medical Practitioners:
Focusing on Verbs

○品川 なぎさ^{※1} 稲田 朋晃^{※1} 山元 一晃^{※2}
SHINAGAWA, Nagisa INADA, Tomoaki YAMAMOTO, Kazuaki

キーワード：医師国家試験、BCCWJ、医学用語、動詞

Keywords: National Examination for Medical Practitioners, BCCWJ, Medical Terms, Verbs

1. 背景・目的

日本の医師国家試験合格を目指す外国人留学生は今後、増加すると予想されている。たとえば、2017年より毎年 20 名程度の医学部留学生の受け入れを開始した大学もある。しかし、医学部留学生の日本語教育は前例が少ないことから研究や報告が少なく、教材もほとんどない。

医学用語については以前からその語彙量と複雑さが指摘されている。増田他¹⁾は、効率的な医学用語の学習を目的として二漢字語の学習辞典を作成した。また、山元他²⁾は、医師国家試験問題を分析し、名詞が 8 割近くを占めること、そのうち 8 割近くが「日本語教育語彙表」³⁾に該当する語がないことを明らかにした。

しかし、医師国家試験問題には、名詞だけでなく他の品詞についても一般とは違う使われ方をしているものがある。それらは日本語教育で扱う可能性が低く、かつ学習者が自然習得する可能性も低いと考えられる。そこで、これらの表現を収集し分析することにした。

2. 方法

医師国家試験は「临床上必要な医学及び公衆衛生に関して、医師として具有すべき知識及び技能」⁴⁾を、選択式問題で問う試験である。本研究の分析対象は、平成 29 年の第 111 回の全問題（500 問）である。ただし、図や表の文字は対象外とした。第 111

回の問題が現時点で最新の医師国家試験であることからこれを対象とした。

手順は以下の通りである。

- (1) 医師国家試験に特徴的であると思われる表現を、日本語教師 2 名がそれぞれ目視により抽出する。
- (2) (1)でそれぞれが抽出したリストを照らし合わせ、2 名が共に抽出した表現のみを抽出する。
- (3) (2)で抽出したリストを「日本語教育語彙表」と対照させ、日本語教育で扱うと考えられる表現を抽出する。
- (4) (3)で抽出した各表現について、医師国家試験におけるコロケーションを参照し、医師国家試験における使われ方と一般的な使われ方がどのように異なるのかを記述する。

3. 分析

医師国家試験に特徴的な表現は、以下の 3 つ(A、B、C)に大別できることが分かった。

A. 一般的なものとは意味が異なる表現

「認める」は、医師国家試験においては、以下の(1)のように「医師が手を触れたり検査をすることで、(異常、腫瘍などが) 実際にあることを確認する」という意味で用いられている。

一方で、一般的には、(2)や(3)のように用いられると考えられる。(2)は「正しいとして、また、かまわないとして受け入れる。(デジタル大辞泉)」、(3)は「見て、また考えて確かにそうだと判断する。(デジタル大辞泉)」という意味で用いられている。

- (1) 胎児超音波検査で異常を認めなかった。

(111 回問題D)

^{※1} 国際医療福祉大学総合教育センター講師

^{※2} 国際医療福祉大学総合教育センター助教

(2) 容疑者が殺害を認めたため、殺人容疑で現行犯逮捕した。(BCCWJ)

(3) 産業医が必要と認める項目について健康診断を受診させ、その結果に基づき必要な事後措置を行うこと、としている。(BCCWJ)

同様の例は他に、「合併する」「聴取する」「出現する」「無効である」などがある。

B. 一般的なものとは異なる品詞で用いられる表現

医師国家試験において、以下の(4)「軽快」は一貫して「する」を伴い動詞として用いられており、「症状がよくなる」という意味だと考えられる。

一方で、一般的な文脈においては(5)や(6)のように、「する」を伴わず形容動詞として用いられている。

(5)は「軽々としていて、動きのすばやいこと。(デジタル大辞泉)」、(6)は「軽やかで、気持ちが良いこと。(デジタル大辞泉)」という意味で用いられている。

(4) 抗菌薬が投与され肺炎の症状は軽快していたが、3日前から頻回の水様下痢が続いている。(111回問題G)

(5) 軽快なパス回しで主導権を握ったF東京が2年ぶりの4連勝(BCCWJ)

(6) キツネ色の衣はサククリと軽快な歯ごたえで、中からホワイトソースとたっぷりのお肉が。(BCCWJ)

同様の例には「障害する」などがある。ただし「障害する」については、一般的な文脈では名詞として用いられるが、医師国家試験においては「する」を伴って動詞として用いられる。

C. 一般的な文脈と動詞の自他が異なる表現

医師国家試験において、動詞「触れる」は下記(7)のように他動詞として使われる例が多い。一方、一般的な文脈においては(8)のように自動詞として使われることが多い。

(7) 被覆皮膚と癒着し波動を触れる径 20 mm の皮疹が存在する。(111回問題E)

(8) 緑を育み、土に触れながら暮らすことは、都市生活者の小さな贅沢である。(BCCWJ)

以上のように、医師国家試験と一般的なコーパス間で自動詞と他動詞の使用傾向が大きく異なる動詞

がある。このような動詞には、他に「増強する」「生じる」などがある。

4. 考察

分析の結果、医師国家試験には意味においても文法面においても特徴的な表現があることが分かった。これらの表現は、語自体は一般的な日本語教育で扱うと考えられるが、医師国家試験では特徴的な使われ方をする表現である。そのため、医師国家試験を目指す留学生には取り上げて指導する必要があると考えられる。

今後の課題としては以下のことが挙げられる。他の試験回の医師国家試験も分析対象とし、試験回によって異なる言語的特徴がみられるのかを分析する必要がある。その上で、本研究で得られた3つのカテゴリーが妥当であるかを検証する必要がある。

(sinagawa@iuhw.ac.jp)

参考文献

- 1) 増田光司・佐藤千史[編著]、中川健司・隈井正三[著]: 留学生のための二漢字語に基づく基礎医学術語学習辞典 日本で働く医療関係者のために、凡人社(2006)
- 2) 山元一晃・品川なぎさ・稲田朋晃: 医師国家試験コーパスの構築と語彙分析一対数尤度比に基づく特徴語の算出、日本語/日本語教育研究会, 第9回大会ポスター発表予稿集(2017)
http://www.cocopb.com/NichiNichi/taikai_pp_files/C4.pdf (最終閲覧日 2017年10月30日)
- 3) Sunakawa, Y., Lee, J. & Takahara, M.: The construction of a database to support the compilation of Japanese learners' dictionaries, *Acta Linguistica Asiatica*, 2(2), pp.97-115 (2012)
- 4) http://www.mhlw.go.jp/kouseiroudoushou/shikaku_shiken/ishi/ (最終閲覧日 2018年1月23日)

引用文献

- 『デジタル大辞泉』(https://dictionary.goo.ne.jp/jn/) 最終検索日 2017年10月30日
『現代日本語書き言葉均衡コーパス データバージョン 1.1』(BCCWJ)